

こども未来部 保育園

第1 監査の概要

1 監査の種類 定期監査（財務監査及び行政監査）

2 監査の対象

監査対象部局 こども未来部 保育園

対象年度 令和2年度

監査対象事項 財務事務等

3 監査等の実施場所及び監査期間

実施場所 各保育園

監査期間 令和3年10月12日

4 監査の主な実施内容

四日市市監査基準に基づき、監査対象部局への聞き取り調査や過去の監査結果を踏まえて、事務事業に内在するリスクを想定し、リスク発生の可能性や発現時の影響度の観点からリスク評価を行うとともに、財務事務や経営に係る事務の管理が法令等に適合し、正確で、最少の経費で最大の効果を挙げているか、その組織及び運営の合理化に努めているかなどについて、関係帳簿・書類の抽出調査、実査及び監査資料に基づく関係職員への質問等の方法により監査を行った。

第2 監査対象の概要

・市立保育園20園のうち、次の4園の監査を行った。

富田保育園、坂部保育園、富洲原保育園、桜台保育園

（富洲原保育園、桜台保育園は書面監査のみ）

第3 監査の着眼点

1 想定されるリスクからの着眼点

事務事業におけるリスクについて事前調査でのリスク評価や聞き取りにより設定した。

(1) リスク評価チェックリストの検証

(2) 出先機関のリスク（マネジメントの目が行き届かない）

(3) 職員のワーク・ライフ・バランスの確保や健康を阻害するリスク

(4) 施設の補修がすみやかに行われないリスク

(5) 園の敷地の境界が曖昧になるリスク

2 3E（経済性、効率性、有効性）・合規性等の視点からの着眼点

事務事業の合規性や正確性のみならず、経済性、効率性、有効性の視点等から設定した。

第4 監査結果

上記の着眼点に基づき監査を行った結果、次のとおり、内在するリスクや事務の一部に是正又は改善を要するものなどが見受けられた。今後の事務執行にあたっては、これらに十分留意するとともに、その措置を講じるよう要望する。

なお、措置を講じたときは、遅滞なく報告されたい。

1 想定されるリスクからの着眼点に着目して行った監査結果

(1) リスク評価チェックリストの検証

リスク評価調査においてはリスクは低かったが、事前調査の結果、財務会計事務、文書事務について、一部事務処理誤りが見受けられた。

リスク評価チェックリストの該当項目

(評点が4点以上又はリスクの発現が見られたもの：発現していた場合 ○)

チェック項目		想定されるリスク	評点	発現
所属の主要な事務事業	事業を行っているか	評価・見直しがなされず、効果のある事業が実施されないリスク	4 / 4	
収入事務	地方税、分担金、使用料、手数料等を徴収する業務を行っているか	法令等に基づいた金額を徴収していないリスク 減免の制度又は運用が適切でないリスク 収入未済となるリスク 収入未済が適正に処理されないリスク	4 / 1 2	
現金管理	現金の取扱いがあるか	現金の紛失、数え間違い、処理遅れ、着服等のリスク	4 / 8	
支出事務	歳出予算（報酬、給料、職員手当等及び共済費、恩給及び退職年金費、賃金を除く。）の執行を行っているか	不適切な金額での支出、支出相手方の誤り、支払遅延など支出が適正に行われないリスク	2 / 1 2	○
財産管理	土地若しくは建物又は公の施設を所管しているか	土地、建物、施設が安全に使用できないリスク 保有コストに見合う効果がないリスク 有効活用（又は、市民に有効利用）されないリスク	4 / 4	
情報管理	個人情報を持っているか	個人情報の漏えいや目的外使用、データの改ざん、滅失等のリスク	4 / 4	

組織・人員	多くの時間外勤務を行っているか	時間外勤務により、職員のワーク・ライフ・バランスの確保や健康を阻害するリスク 業務量に対し職員数が不足することにより、業務が停滞するリスク	4 / 4	
-------	-----------------	--	-------	--

(評点／リスク最大時評点)

(2) 出先機関のリスク

- ◆保育業務のかたわら書類作成、書類の確認作業等の事務仕事を行う必要があり、さらに、出先機関であることから、事務上の不備が生じやすいのではないかと。保育幼稚園課のチェックは行き届いているか。

リスク発現の可能性 (○予防策あり、△可能性あり、×発現)

△ 支出負担行為兼支出命令書等財務関係書類は保育幼稚園課の決裁を受けており、チェックはされている。修正等で保育園と保育幼稚園課との間のやりとりに時間がかかることはあるが、今回監査対象園において支払遅延はみられなかった。引き続き、迅速で正確なチェックが必要である。

(3) 職員のワーク・ライフ・バランスの確保や健康を阻害するリスク

- ◆ワーク・ライフ・バランスを推進するため、業務の効率化や休暇取得の促進、時間外勤務の縮減等の職員の働き方の改善がなされているか。

リスク発現の可能性 (○予防策あり、△可能性あり、×発現)

△ 今回監査対象園においては、年間360時間を超える時間外勤務を行っている職員は見受けられなかった。引き続き、職員の健康の維持やワーク・ライフ・バランスの実現のため、勤務時間管理の適正化と職員の意識改革を推進する必要がある。

(4) 施設の補修がすみやかに行われないリスク

- ◆遊具、フェンス等の設備が破損したり錆びたりして安全性に欠けた状態が続くことはないか。

リスク発現の可能性 (○予防策あり、△可能性あり、×発現)

△ 一部に色の褪せた状態もみられるものの、職員が設備を適宜チェックして、園で執行可能な金額で実施できる修繕はすみやかに行うよう努めており、保育幼稚園課の所管となる修繕については補修の要望をしている。安全に遊ぶことのできない状態となっている遊具などは、補修までの間、紐で入口から全体を括ったりと、誤って使用することのないようにしている。

今年度(令和3年度)から用務員が配置されたことにより、軽微な修繕の対応も、より早く行えるようになった。

指 摘

【坂部保育園】

保育園の外周にある排水溝で破損している箇所があった。早急に安全対策を講じること。

意 見

【坂部保育園】

- ① 5歳児部屋の入口付近の床の傾斜、高さが低いフェンスやグラウンドにある穴の対策、園庭にある樹木が大きくなっているため枝が道路にはみ出すことによる通行人への妨げなど、維持管理については保育幼稚園課とも協議して適切に進めること。
- ② 公共施設アセットマネジメントに基づき施設の修繕を進めているが、施設も古くなっているため、簡易な修繕を職員が行うことが発生している。園児の安全に関わることは保育幼稚園課とも連携して対策を講じること。
- ③ 隣地にあるフェンスが保育園の敷地側に傾いている。倒れてくると危険であるので注視していくとともに、機会を見てフェンス所有者へも対策を働きかけること。

(5) 園の敷地の境界が曖昧になるリスク

◆園の敷地と、隣接する民地との境界が適正に把握されているか。把握されていないと、園の敷地が無断で使用されたり、気づかずに民地に立ち入って管理してしまったりする危険性がある。

リスク発現の可能性（○予防策あり、△可能性あり、×発現）

- 境界杭があるなど、ほとんどの園において民地との境は明確である。一部の境界が曖昧な園もみられたが、境界立ち合いの実施や書類調査により、敷地の境界をはっきりさせるべく適宜対応している。

2 3 E（経済性、効率性、有効性）からの着眼点に着目して行った監査結果

意 見

【共通事項】

① 内部事務管理について【合規性の視点】

内部事務の基本的な部分で、事務処理誤りが見受けられた。これは、職員の業務に関する知識不足や単純なミスに加えて所属内でのチェック・牽制体制が十分に機能していないことに要因がある。所属長は定められたルールに基づいた事務執行の意識を職員に定着させるとともに、所属において発生しやすいミス等によるリスクを認識させ、日常的に確認すべき事項を定型化して確認するなど、内部チェック体制を整備して、内部事務管理の徹底を図ること。

② 雇用形態の異なる職員間の情報共有について【住民福祉の向上の視点】

保育園には多くの職員がいるが、雇用形態は様々であり多様なシフト体制であるの

で、全職員が集まる機会はない。日々の業務において、園児に関する情報共有の行き違いや漏れが発生することで、園児の安全管理が損なわれることや保護者との信頼関係が崩れることがないように、引き続き、情報共有の重要性を認識して業務に取り組むこと。

③ 食物アレルギーのある園児への対応について【住民福祉の向上の視点】

食物アレルギーは子どもの命に関わる。職員間の情報共有はもとより、引き続き、研修等で職員の知識を高め、事故のないように注意深く保育を行うこと。

④ 不審人物から園児を守ることについて【住民福祉の向上の視点】

見知らぬ人が子どもを迎えに来るといったことや、不審な人物が園の敷地に入ってくることもありうるが、危険が生じないように、引き続き保護者への確認を徹底するとともに、防犯カメラにもよく注意を払うこと。

⑤ 個人情報管理の徹底について【法規性の視点】

事務室は様々な人が出入りをする。個人情報を保護する観点から、職員が席を立つときは机にある書類を片付けることやパソコンを閉じるなど、きめ細やかな個人情報のセキュリティの管理を図ること。

⑥ ICTの活用について【住民福祉の向上の視点】

コロナ禍において、各種行事の中止により保護者が保育行事に携わる機会が減っている。そのため、保育園での様子や活動は、丁寧に保護者へ報告したり、写真付きのたより等にて保護者へ伝えているが、そのことにより職員の負担も増加していることが想定できる。ICTを活用した業務の効率化やタブレット等を活用した保護者とのコミュニケーション手法も普及してきているので、保育におけるICTの活用を研究すること。

⑦ 園児用のベッドスペースの確保について【住民福祉の向上の視点】

事務室内に発熱などにより体調不良になった園児を寝かせるためのベッドがあり、保護者が迎えにくるまでの間はそのベッドに園児を寝かせている。ベッドが1台しかない園においては、複数の園児が体調不良になることを想定し、そういった場合にもスムーズに対応できるよう、その対策を全職員で共有しておくこと。

こども未来部 幼稚園・こども園

第1 監査の概要

- 1 監査の種類 定期監査（財務監査及び行政監査）
- 2 監査の対象
対象部局 こども未来部 幼稚園・こども園
対象年度 令和2年度
対象事項 財務事務等
- 3 監査の実施場所及び監査期間
実施場所 各幼稚園・こども園
監査期間 令和3年10月13日

4 監査の主な実施内容

四日市市監査基準に基づき、監査対象部局への聞き取り調査や過去の監査結果を踏まえて、事務事業に内在するリスクを想定し、リスク発生の可能性や発現時の影響度の観点からリスク評価を行うとともに、財務事務や経営に係る事務の管理が法令等に適合し、正確で、最少の経費で最大の効果を挙げているか、その組織及び運営の合理化に努めているかなどについて、関係帳簿・書類の抽出調査、実査及び監査資料に基づく関係職員への質問等の方法により監査を行った。

第2 監査対象の概要

- ・市立幼稚園・こども園21園のうち、次の6園の監査を行った。
三重幼稚園、桜幼稚園、保々こども園
（富洲原幼稚園、三重西幼稚園、富田幼稚園は、書面監査）

第3 監査の着眼点

- 1 想定されるリスクからの着眼点
事務事業におけるリスクについて事前調査でのリスク評価や聞き取りにより設定した。
(1) リスク評価チェックリストの検証
(2) 出先機関のリスク（マネジメントの目が行き届かない）
(3) 職員のワーク・ライフ・バランスの確保や健康を阻害するリスク
(4) 幼稚園の持続性に関するリスク
(5) 園内における園児の安全が十分にとられていないリスク
- 2 3E（経済性、効率性、有効性）・合規性等の視点からの着眼点
事務事業の合規性や正確性のみならず、経済性、効率性、有効性の視点等から設定した。

第4 監査結果

1 想定されるリスクからの着眼点に着目して行った監査の結果

(1) リスク評価チェックリストの検証

リスク評価調査においては、全体的にリスクは低い評価となった。

事前調査の結果、一部事務処理誤りが見受けられた。

リスク評価チェックリストの該当項目

(評点が4点以上又はリスクの発現が見られたもの：発現していた場合 ○)

チェック項目		想定されるリスク	評点	発現
所属の主要な事務事業	事業を行っているか	評価・見直しがなされず、効果のある事業が実施されないリスク	4 / 4	
収入事務	地方税、分担金、使用料、手数料等を徴収する業務を行っているか	法令等に基づいた金額を徴収していないリスク 減免の制度又は運用が適切でないリスク 収入未済となるリスク 収入未済が適正な管理がされないリスク	4 / 12	
現金管理	現金の取扱いがあるか	現金の紛失、数え間違い、処理遅れ、着服等のリスク	4 / 8	
支出事務	歳出予算（報酬、給料、職員手当等及び共済費、恩給及び退職年金費、賃金を除く。）の執行を行っているか	不適切な金額での支出、支出相手方の誤り、支払遅延など支出が適正に行われないリスク	2 / 2	○
財産管理	土地若しくは建物又は公の施設を所管しているか	土地、建物、施設が安全に使用できないリスク 保有コストに見合う効果がないリスク 有効活用されないリスク	4 / 4	
情報管理	個人情報を取っているか	個人情報の漏えいや目的外使用、データの改ざん、滅失等のリスク	4 / 4	
組織・人員	多くの時間外勤務を行っているか	時間外勤務により、職員のワーク・ライフ・バランスの確保や健康を阻害するリスク 業務量の対し職員数が不足することにより、業務が停滞するリスク	4 / 4	○

※評点（評点／リスク最大時評点）

(2) 出先機関のリスク（マネジメントの目が行き届かない）

- ◆出先機関であることから、支払い書類の確認等をするにあたり、事務上の不備が生じやすいのではないか。保育幼稚園課のチェックが行き届いているか。

リスク発現の可能性（○予防策あり、△可能性あり、×発現）

△ 消耗品等の納品後請求書を受領し、支出負担行為兼支出命令書を作成して保育幼稚園課に提出し、チェックを受けている。誤りがあると幼稚園に書類を戻し、修正等のやりとりが必要となるが、支払遅延にはならず、支払いが完了した。引き続き、迅速で正確なチェックが必要である。

(3) 職員のワーク・ライフ・バランスの確保や健康を阻害するリスク

- ◆ワーク・ライフ・バランスを推進するため、業務の効率化や休暇取得の促進、時間外勤務の縮減等の職員の働き方の改善がなされているか。

リスク発現の可能性（○予防策あり、△可能性あり、×発現）

× こども園の職員の一部が年間360時間を超える時間外勤務を行っていた。職員の健康の維持やワーク・ライフ・バランスの実現のため、引き続き勤務時間管理の適正化と職員の意識改革を推進する必要がある。

(4) 幼稚園の持続性に関するリスク

- ◆今後幼稚園に入園する園児がますます減少し、幼稚園の存続が困難となるのではないか。

リスク発現の可能性（○予防策あり、△可能性あり、×発現）

△ 公立幼稚園に入園させたい保護者は一定数いるものと考えられるが、数年後に希望する幼稚園が存続しているのか、また、こども園とはどういう場所なのかなどについて不安になっているとのことであった。こういった不安感を少しでも軽減するため、今後も、保育幼稚園課と緊密に情報共有し、保護者に丁寧に説明する必要がある。

園児の状況

(人)

	三重幼稚園	桜幼稚園	富洲原幼稚園	三重西幼稚園	富田幼稚園
定員 (R3. 5. 1)	70	70	70	70	70
R3. 5. 1	23	7	18	11	14
R2. 5. 1	27	19	15	16	20
R1. 5. 1	22	27	19	12	20
H28. 5. 1	52	35	27	29	40

意見

【三重幼稚園】【桜幼稚園】

市全体として幼稚園児の減少が続いているが、あそび会や送迎時に保護者からの不安、悩み相談に対し、きめ細やかに対応していることは公立幼稚園の強みである。保護者に公立幼稚園を選択してもらえるような様々な魅力づくりに取り組むこと。

(5) 園内における園児の安全が十分にとられていないリスク

◆園舎内や樹木、遊具等で、不具合がある状態で放置されているものはないか。

リスク発現の可能性（○予防策あり、△可能性あり、×発現）

△ 施設や遊具等に不具合や老朽化が見受けられた場合には、保育幼稚園課に施設修繕の要望を行っている。以前は要望を行っても、修繕の必要性が高いものから行われ、修繕の数が制限され、数年間同じ修繕の要望を行っていたが、最近は要望への対応がスムーズに行われるようになった。今後も施設の安全性の確保が必要である。また、新たに遊戯室にエアコンが設置されたこともあり、園児が過ごしやすい環境となった。

意見

【三重幼稚園】【桜幼稚園】

全体的に概ね清掃、安全面の管理が行き届いているものの施設や物品の整備について、次のとおり不備が見受けられた。園で修繕できないものについては、保育幼稚園課に要望すること。

ア ブランコの塗装が剥げており、錆があるため修繕すること。また、切株は子どもが怪我をすることがないように安全対策を施すこと。避難訓練時に使用している踏み台は老朽化しているため事故のないよう対応すること。（三重幼稚園）

イ 溝に合わないグレーチング、禽舎の枠の剥がれ、老朽化したスチロール製の畑の枠、園舎の鳥の巣、手洗い場の水漏れが見受けられたので対応を行うこと。職員室の配線コードが乱雑であったため整理すること。（桜幼稚園）

2 3 E（経済性、効率性、有効性）等の視点からの着眼点に着目して行った監査結果

意見

【共通事項】

① 内部事務管理について【合規性の視点】

内部事務の基本的な部分で、いくつかの事務処理誤りのある園が見受けられた。これは、職員の業務に関する知識不足や単純なミスに加えて所属内でのチェック・牽制体制が十分に機能していないことに要因がある。所属長は定められたルールに基づいた事務執行の意識を職員に定着させるとともに、所属において発生しやすいミス等によるリスクを認識させ、日常的に確認すべき事項を定型化して確認するなど、内部チェック体制を整備して、内部事務管理の徹底を図ること。

【三重幼稚園】

② 園のセキュリティ対策について【効率性の視点】

職員数が少ないことから保育中は、職員室が用務員のみや空室になることがある。園長がセキュリティに対し、しっかりとマネジメントを行うこと。

【桜幼稚園】

③ 園のセキュリティ対策について【効率性の視点】

当園は2階に職員室がある。職員室に鍵をかけ、ほとんど1階で過ごしているということであるが、全体が見渡せるレイアウトではないため、気が遅れたり情報が届きにくいいため、安全面にリスクがあることを認識すること。

④ 職員数について【住民福祉の向上の視点】

ア 当園は特別支援の必要な園児がいるにもかかわらず、特別支援加配の職員が配置されていない。園児の安全面からも見守りが必要なため、職員の増員を要求すること。

イ 園児数は少ないが、職員の数も少ないことから園児一人一人に目が行き届くように配慮すること。

【保々こども園】

⑤ 現金出納簿について【法規性の視点】

収納金の現金出納簿において、同一日の現金の出納であると日付欄が空白になっている欄があるが、日付の記入は必要である。その日の残を確認する重要な記録であるので、記入漏れのないようにすること。

⑥ ヒヤリ・ハットの認識や職員間の情報共有について【有効性の視点】

職員数が他の園と比較すると相当多いため、確実な情報共有を行い、職員同士の連携を図ることにより、ヒヤリ・ハットの発生防止に努めること。

⑦ 教育認定と保育認定の差について【住民福祉の向上の視点】

1号認定の園児は早く退園するが、2、3号認定の園児とあまり差をつけないように、保護者から見て教育認定と保育認定で色分けされた印象にならないように引き続き配慮すること。

※1号認定：4時間程度の教育標準時間で通園する子どもの年齢が満3歳～5歳の場合。

2号認定：保育に必要な事由（保護者の就労、妊娠、出産、疾病、障害など）に該当する場合に、保育標準時間（原則11時間以内）や保育短時間（原則8時間以内）で通園する子どもの年齢が満3歳～5歳の場合。

3号認定：保育に必要な事由（保護者の就労、妊娠、出産、疾病、障害など）に該当する場合に、保育標準時間（原則11時間以内）や保育短時間（原則8時間以内）で通園する子どもの年齢が0歳～満3歳未満の場合。

【三重幼稚園】【桜幼稚園】

⑧ 収納金の取扱いについて【有効性の視点】

現金の取扱いや管理について、複数の職員によるチェックを行い、厳重な管理と事故防止を徹底すること。また、金融機関にて納付を行う際には安全面について配慮すること。

⑨ ヒヤリ・ハットの認識や職員間の情報共有について【有効性の視点】

ヒヤリ・ハットがなぜ起きたのかマニュアルの参照や個々の要因分析をしていると思うが、施設や設備に原因があるのであれば、保育幼稚園課に伝え、その障害を取り除くこと。ソフト面での原因であれば担任と話し合い指導すること。また、事例を職員で情報共有し、事故等の発生の未然防止や日々の子どもたちに目配りをしてしながら、同じことが起きないように、職員全員で体制を整えること。

⑩ 公立幼稚園のこども園化について【有効性の視点】

本市の公立幼稚園の園児の急激な減少に伴い、こども園への移行が進められているが、こども園がどのような施設かわからない保護者に向け、幼稚園の機能はこども園においても保たれることなどを職員から話すことにより、安心感が生まれるため、丁寧な説明に努めること。

評 価

三重幼稚園では降園時の際、誕生会の様子を保護者にタブレットで見ってもらうことや、友達に興味を持てるよう近隣園とオンラインで交流するなどし、タブレットを活用している。

桜幼稚園では他園とオンラインでつなぎ、一緒に体操をすることや、PTA会議、保育の様子を保護者に見ってもらうことにタブレットを活用している。このような取り組みを評価したい。